

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岩上ゼミ

基本テーマ	<p>『金融を通して地域社会の課題解決を考える』</p> <p>金融は経済活動の基盤であり、私たちの生活を豊かにするために不可欠な仕組みです。金融の大きな役割の一つは、新しい技術やサービスを持つ企業への投資や融資を通して、私たちの社会が抱えるさまざまな課題を解決することです。</p> <p>ゼミでは、企業分析や資産運用・投資について学ぶとともに、2年次は地域社会が抱えるさまざまな課題の中からテーマを決め、調査・分析しながら投資を活用して解決策を考えるプロジェクトを1年間かけて行います。</p>
ゼミ運営方法	<p>1年生後期(演習Ⅰ):企業分析、資産運用・投資を学ぶ 企業分析の基礎を学びます。同時に、ゼミ生は担当教員の「ファイナンス論」を履修し、資産運用や投資についての実践的な知識を身に付けます。</p> <p>2年生(演習Ⅱ・卒業研究):チームでプロジェクト研究する 3~5人でチームを組み、地域社会が抱える課題の中からチームごとにテーマを決め、調査・分析しながら課題解決の方法を考えていきます。調査では、フィールドワーク(学外の識者インタビューや現場見学など)も行います。プロジェクトの成果をまとめ、「日経ストックリーグ」(日本経済新聞社が主催するチーム対抗の金融経済・投資学習コンテスト)に応募します。日経ストックリーグの応募レポートが卒業論文となります。</p> <p>今年3月卒業生は「かごしま茶を世界へ」、「救おう! 買い物弱者を」というテーマでプロジェクトを行い、「かごしま茶」チームが入賞しました。 (大学部門667チーム中の9チームのみ。 短大では唯一。大学生部門で県内初)。</p>  <p>東京での表彰式に参加 (2024/3/16)</p>
就職指導の方針	企業の人事部にいた経験をもとに、就職活動全般について相談に乗り、指導します。編入や公務員志望者についても出来る限りのサポートをします。
卒論の要件	日経STOCKリーグのコンテスト提出レポートが卒業論文となります。従って、個人での卒業論文作成は必要ありません。
学生への要望	以下に該当する学生の応募を期待します。 ①地域が抱える課題に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲をもつ人。 ②3~5人程度のチーム活動に、積極的に取り組むことができる人。 ③大学生としての基本的なマナーを守れる人。
その他	希望する学生は、応募前に研究室(3号館4F-411)まで来てください。ゼミ活動の様子や日経ストックリーグの説明など、何でも質問に答えます。 あらかじめメールで予約して貰うほうが確実。(iwakami@k-kentan.ac.jp) <p>前期に担当教員の講義(「金融論」、「経済政策」)を履修している必要はありません。履修していないことがゼミでの学習や研究、成績評価に不利になることもありません。</p> <p>担当教員について:研究室HP(https://www.iwakami-lab.com)を参照</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村(俊)ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>ゼミのテーマは“情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い”です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、“ICT(情報通信技術)を活用することで、ラクして、いい仕事しよう”となります。</p> <p>ヒット商品や心理学に関して学ぶこともあります。あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。</p> <p>岡村(俊)はICTの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択肢となります。一方、「コンピュータは苦手、でもうまくなりたい」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができ、苦手意識を克服することができるかもしれません。ICTに興味がない人はこのゼミには向いていません。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>基本的に“演習1”と“演習2”は“卒業研究”に向けての準備だと考えます。卒業研究は“勉強”ではなく“研究”なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのICT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)など実践的な活動をやることもあります。</p> <p>ゼミの運営は基本的に学生主体が望ましいところです。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。状況が許せば、施設見学など授業時間外での活動も、できる限り学生の希望に対応していきたいと考えてます。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を“自立した人物”として扱います。“自立した人物”になれない、“自立した人物”になろうとしない学生は、最低限の学習しかできないと思ってください。</p>
<p>その他</p>	<p>何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村(雄)ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>「会計情報から企業と社会の問題を考える」 会計学のゼミです。現時点での簿記の学習歴は問いませんが、会計情報を読み解くには複式簿記会計の基本原則を理解する必要があります。モノポリーなどのゲームを活用しながら複式簿記のしくみを学ぶことからスタートし、会計学の基本テキストを講読します。ここまでくれば企業はもとより、自治体等の会計情報も分析できるようになります。 ただし、会計情報の分析から得られることは限定的です。それを切り口として、私たちの社会で発生している諸問題(コロナウイルス感染拡大による企業活動への影響、企業活動による自然環境への影響等)について考える姿勢を大切にしたいと思います。 日商簿記検定等の合格を目指す学生はもとより、企業と社会の関係、社会における企業の役割について関心がある学生も歓迎します。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>学生主体の運営が望ましいと思っています。本演習の大まかな計画は次の通りです。</p> <p>演習Ⅰ:複式簿記会計の実践的学習、会計学の基本テキストの講読 演習Ⅱ:会計情報分析の実践演習、卒業研究の計画 卒業研究:毎週、研究の進捗を報告しながら、論文にまとめる</p> <p>過去に実施した課外活動として下記のものがありますが、主体となるのは学生であり、参加は任意です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定対策の学習会 ・県大祭での模擬店経営 ・長期休暇を利用した合宿(垂水市、南九州市、本学) ・調査旅行(東京都、京都府、福岡県、熊本県)
<p>就職指導の方針</p>	<p>履歴書、エントリーシートの添削、小論文の対策等できるかぎりサポートします。</p>
<p>卒論の要件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本テーマにしたがって論文を書いてもらいます ・字数制限は設定しません
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことと思っても遠慮なく相談してください ・気持ちの良い挨拶を心がけ、ルールやマナーを大切にしてください ・財務会計論等の会計科目の受講を推奨します
<p>その他</p>	<p>本演習に関心のある方は気軽に研究室を訪ねてください。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

倉重ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>このゼミでの基本テーマは、「コンピュータを用いた意思決定」です。ここでのコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたり、特殊なソフトを使うことです。さらにサブテーマとして、「観光」をあげています。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演習ⅠとⅡでは、エクセルを利用したプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきます。ゼミ生の習熟具合や希望に応じて、「エクセルを使った鹿児島すごろく」の作成や「観光地の評価」、機械学習(AIの一部)への取り組みも考えています。また、コンピュータを用いる課題以外にも人前で話すことや思考力を養う課題などがあります。 ・卒業研究では、基本的に自分が興味を持てるテーマで卒論を書いてもらいます。 ・課外活動は、学生さんからの要望があれば実施します。
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職活動に関しては、「自分のペースで活動したい」、「背中を押してもらいたい」など様々な人がいます。要望があればESの添削や面接練習などを行うことを前提にした上で、「暖かく見守る」、「週一で進捗状況を確認する」など皆さんの希望に応じた距離感で指導します。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>テーマなどは自由で、複数名で取り組むことも可能とします。分量に関しては、その内容によります。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに興味があること(経験はまったく問いません)。 ・チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思います。 ・後期開講予定の統計学は受講していただけたら幸いです。
<p>その他</p>	<p>このゼミは、以下のような人が向いている気がします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人 ・数字を扱うパズルが好きな人(得意である必要はありません) ・フェルミ推定が楽しそうと思える人 <p>(フェルミ推定については、ネットで調べてみてください。過去の課題例: 県短で1年間に消費されたトイレトペーパーのロール数、県短内で1年間に発生した消しカスの重量、県短内での1年間のタイピング数、県短の門を1年間に通過した人数などの推定)</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

瀬口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>私の講義科目である、マーケティング論や経営戦略論が基本テーマになります。マーケティング論でいえば、「売れる商品と売れない商品は何が違うのか」、「ブランド力を高めるためにはどうすれば良いのか」、「海外で行うマーケティングは、日本国内で行うマーケティングと何が違うのか」などについて。経営戦略論では、「企業と企業はどのように競争しているのか」、「ライバル会社に勝つためにはどのような手段があるのか」、「企業の行動は社会に対してどのような影響を与えるのか」などの疑問について考えていきます。</p> <p>これらの疑問は、すぐに答えが出るものではありません。1年生後期の【演習Ⅰ】で基本文献を読み、マーケティング論や経営戦略論の基本的思考と理論枠組みを学びます。そこで得られた知識を、2年生からの【演習Ⅱ】と【卒業研究】のなかで、具体的な商品や企業に応用させていきます。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニーリゾート」、「ユニクロ」、「ルイ・ヴィトン」、「アニメ産業」、「K-POP」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。その他にも、広告の効果やドラッカー学説の検討など、理論的に考察した研究もありました。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【演習1】では、各自で興味のある本を1冊選択し、そのなかの1～2章分を担当します。皆の興味が一致した場合は、ゼミで共通の本を指定します。 ・【演習2】では、卒業論文作成に向けて、テーマの設定や資料探しなどを行います。 ・【卒業研究】では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。 ・希望に応じて、学内開放(学祭)への参加、食事会を含むゼミ内親睦会、工場見学などのゼミ旅行も考えています。 <p>ただし、こちらから無理に企画することはありません。皆さんからの希望を聞きながら、あくまでもゼミ生が主体となって計画・実行してもらいます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差を付けることはありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを可能な範囲でお手伝いします。ゼミ以外でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。</p> <p>また、就職活動に必要なとされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手に分かるように伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導するつもりです。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な範囲、すなわちマーケティング論・ブランド論、経営学、社会学の一部(文化社会学、消費社会論、メディア論等)などに限ります。</p> <p>文字数の指定はありません。心配しなくても、書くべきことを書いていけば、十分な文字数になります。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで丁寧に指導していきますので安心してください。ただし、瀬口ゼミでは、早期から卒論の準備を始め、作成においてもゼミ内で早めに締め切りを設定していますので注意してください。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現時点での知識は問いません。また、私の授業の受講経験や専攻の違いなども、ゼミ選抜には全く関係ありません。</p> <p>ただし、ゼミに入って一緒に学ぶ上で、以下の点を守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①特別な理由が無い限り欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡し、無断欠席をしないこと。 ②自分が担当すること(担当する章の報告など)には責任を持つこと。 ③「黙っていても何かしてくれる」のではなく、「自分たちでゼミをつくっていく」気持ちを持つこと。
<p>その他</p>	<p>ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまで遠慮なくメールしてください。</p> <p>私と直接話して相談したい場合も、上記のメールアドレスにメールを送ってください。お互いの時間を調整して相談に乗りたいと思います。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

宗田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>【基本テーマ】 会計学の視点による中小企業の調査・研究 【概要】 中小企業を考察対象として、ビジネスモデルや会計について学び、経営を行なっていく上で、会計の果たす役割について検討していきます。ゼミでは、会計情報の作成、利用について学ぶとともに、会計学隣接分野についても学びます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰ（1年後期）、Ⅱ（2年前期）： 中小企業に関連する基本書を通読したり、企業の調査・分析手法について学びます。（同時に中小企業関連資格の勉強も行う予定です。） また、グループ単位で個別の企業を実際に調査分析をしてもらおうと考えています。</p> <p>卒業研究（2年生後期） 演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに卒業論文の作成を目指します。</p> <p>ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。 「勉強の方法を学ぶ」、「知識・技術の習得」、「交流と協調」、「よく遊び、よく学ぶ」 なお、任意参加となりますが、税理士事務所、公認会計士事務所、中小企業などを訪問する機会を設けます。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような進路であっても、可能な限り皆さんのリクエストに応えます。過去のゼミ卒業生は、公務員、金融機関、中小企業、大企業、進学、起業、フリーターと多様です。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>各自で設定した卒論テーマに従って、卒業論文を作成していただきます。字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現在の知識や技術ではなく、次のような学生の参加を望んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をしたり、時間を守ったりするなど、ルールやマナーを守ることができる学生。 ・ 勉強に限らず、自らの目標もしくは目的に向けて学生生活を送っている学生。 ・ サークルや自治会活動、大学イベントなどに積極的にかかわれる学生。 ・ ゼミに入った場合、会計関連科目（簿記論、原価計算、会計学総論、財務会計論、会計情報論、管理会計論など）を履修していただけると幸いです（強制はしませんが希望します。）
<p>その他</p>	<p>【担当者自己PR】 3号館3階に研究室があります。ゼミ選択について聞きたい、知りたいことがあれば、随時、来室してください（アポイント不要） 連絡先アドレス：sota * k-kentan.ac.jp （*は@に換えること）</p> <p>火曜日2限の基礎演習後、水曜日の午前、午後は確実に研究室に在室していません。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

竹中ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>テーマは、「経営学を学び、これらからの働き方を考える」です。 経営学のゼミですので、企業やその活動内容についての理解を深めていきます。同時に、私たちにとって大事な問題である、企業との「働き方」についても考えていきます。「良い企業とはどのような企業なのか」「望ましい働き方とはどのようなものか」などのテーマについて、テキストでの内容を手がかりにして、ゼミで議論を行います。</p> <p>テキストは「みんなの経営学」(佐々木圭吾著)を候補として考えています。 ゼミのメンバーが決まれば、テーマやテキスト、進め方について改めて考える機会を設ける予定です。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>大きな流れとしては、以下のようになります。 演習1:テキストを中心として、経営学や企業を考える知識を得る ↓ 演習2:①各自の卒論のテーマを設定し、執筆の準備をはじめ ②引き続きテキストの内容を取り上げる ↓ 卒業研究:卒業論文を仕上げる</p> <p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動していきます。 ゼミ生同士で考えていく時間を多くしていくつもりです。</p> <p>ゼミでは、各自のテーマについて問題意識を持って考えていくことが大切です。自分の意見を述べると共に、他の学生からの質問や感想にも耳を傾けることで、様々な問題の理解が深まっていくようなゼミ運営ができることを望んでいます。</p> <p>なお、ゼミ合宿等の大学外での活動の予定はありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートをしていきたいと考えています。これまでは、履歴書作成や志望動機、自己PRなどどのように書けばよいかについて、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そことの連携も行っていきます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論の分量については、目安としてA4用紙10枚程度(12000字～15000字程度)が必要です。テーマについては、経営学や、ゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマを見つけ、それについてじっくりまとめることができれば大丈夫です。1年生の演習1の終盤からそれぞれと意見交換しながらテーマや内容について考えていく予定です。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身の考え方・問題意識が大切です。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また、伝える方法にまだ慣れていなければ、ゼミなどの機会を活用して練習していくことで、経験値が上がっていきます。このようなことを理解し、積極的に取り組んでくれる学生を望みます。</p>
<p>その他</p>	<p>ゼミについて何か質問がある場合は、 メールでの連絡(takenaka@k-kentan.ac.jp)、 もしくは、授業後や研究室などで声をかけて下さい。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

近間ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>テーマ:人口減少下の労働問題を考える 日本の生産年齢人口(15~64歳)は大幅な減少傾向になると見込まれています。そうした社会では、希少性が高まりゆく労働力をいかに有効に活用するかという方向性が模索されています。誰もが望ましい働き方を実現でき、働きがいと高めることができるためにも、既存の制度の見直しや労働環境の改善が求められています。 一方で、今日の働き方には過労死や長時間労働、非正規労働者の不安定雇用や低賃金という問題があり、上記の目的の達成には困難が生じています。ゼミでは日本の働き方の特徴、ライフスタイル(結婚、子育て、介護など)との関係性について考えていきたいと思ひます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>大まかには以下のような流れで進めていきたいと思ひます。 演習Ⅰ:ゼミのテーマに関わるテキストを1冊選択し、輪読を行います。 演習Ⅱ:卒論の執筆に向けて、各自が関心を持っているテーマに係る論文を取り上げ、その内容を報告してもらひます。 卒業研究:卒論の目次案、概要を報告してもらひ、実際に卒論を作成してもらひます。各々の進捗状況に合わせて、適宜アドバイスを行います。</p> <p>ゼミ運営の具体的な方法については、ゼミ生と相談しながら決めていきたいと思ひます。あくまで学生が主体となってゼミが運営されることが望ましいので、参加しやすいやり方についても何かあれば提案してください。</p> <p>また、ゼミ生の希望があれば学内開放での模擬店経営やゼミ旅行、ゼミ合宿などの課外活動を企画したいと思ひます。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差をつけることはありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>希望者には、履歴書の作成や面接練習などを可能な範囲でサポートしていきたいと思ひます。就職活動はゼミのテーマとも密接に関わることですので、心配事なども遠慮せず相談してください。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>社会問題を扱うテーマであれば、ゼミで扱うテーマでなくても構いません。テーマについては、ゼミのなかで相談しながら決めていきたいと思ひます。文字数は目安として10,000~12,000字程度とします。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守ってお互いが気持ちよくゼミに参加できるように心掛けていきましょう。 ・欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席しないこと。 ・ゼミでは活発な議論ができることを望みます。ただし、どんな発言に対しても相手を誹謗・中傷するようなことはしないことを守ってください。
<p>その他</p>	<p>前期は国内留学中のため、研究室におりません。 ゼミについて興味がある方は、zoom等での説明会を実施しますので、メール(chikama@k-kentan.ac.jp)にてアポを取っていただければと思ひます。もちろん、メールのみでの質問もかまいません。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

福田ゼミ

基本テーマ	<p>ロシアによるウクライナ侵攻は、これまでの国際秩序に深刻な影響を与えました。国際社会で起きる様々な出来事が、鹿児島で暮らす私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えたいと思います。グローバルな視点をもって、ローカルで活動できるようになることを目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、新聞の社説の読み比べをして、社会の様々な問題に対してどのような意見があるのかを見ていきたいと思います。そしてその問題について議論したり、レポートを作成してもらいます。</p> <p>演習2では、国際関係論に関する基本的な文献の輪読をして、順番に報告してもらいます。同時に、順番を決めて毎週新聞記事についての報告してもらいます。演習2の途中から各自の興味のあるテーマについてまとめてもらいます。</p> <p>卒業研究では、各自の卒論のテーマについて報告してもらう予定です。</p> <p>ゼミの運営に関しては、参加者と相談しながら決めて行きたいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験、他の人と違った経験をするを勧めます。</p>
卒論の要件	<p>「基本テーマ」に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
学生への要望	<p>ゼミなので、積極的な態度で臨んでもらえればと思います。何か相談があれば、何でもご相談ください。</p>
その他	<p>何か質問があれば、遠慮なくメールでfukuda@k-kentan.ac.jpまで問い合わせてください。直接研究室に来てもらっても構いませんが、事前にメールで連絡をもらえると確実です。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

藤野ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>ゼミでは、フィールドワーク等を通して「伝統産業」について考えます</p> <p>鹿児島県には薩摩焼や川辺仏壇など、数多くの伝統産業があります(https://www.pref.kagoshima.jp/kids/sangyou/dentoukougei.html)。伝統産業というと、なんだか「古臭い」といった印象を持つかもしれませんが、何十年、何百年かけて蓄積された技術を進化させてイノベーションを創出したり、他の産業との相乗効果により新たな価値を生み出している企業が数多くあります。</p> <p>ゼミでは「伝統産業」をテーマにゼミ活動を行います。書籍の知識だけではなく、実際に学外でフィールドワークをしたり、ときには実際にモノを作ったりしながら、伝統産業の未来について考察します。具体的な内容については「ゼミ運営方法」をご参照ください。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>基本的な運営方法については、受講者と相談して決めていきます。今のところ藤野は、以下のように考えています。</p> <p>・演習1 県内の伝統産業について、書籍等で学ぶだけでなく、実際に薩摩焼の窯元を見学し、薩摩焼を「自分で作る」ことを通して理解をより深めるところから始める予定です。また、自治体の担当部署の方にゲストスピーカーとしてお越しいただき、お話を聞くことも考えています(うまくいけば、演習2の内容に早めに取り掛かります)。</p> <p>・演習2 演習1での知識をもとに、企業等へのヒアリング、伝統産業についての街頭調査、伝統産業を利用した地域振興の企画提案あたりができれば良いなあ・・・と考えています(全てはできないので、関係各所と交渉の上、どれにするかを決めようと思います)。これと並行して、論文執筆の準備(テーマを決めて、資料等を収集)をします。</p> <p>・卒業研究 演習2の内容の続きに取り組むとともに、論文も執筆します。</p> <p>このほか、任意参加のイベントとしてゼミ合宿(福岡)も実施します。福岡で地域活動を行っている大学生と交流し、これまで行った活動について報告し合います。また、合宿ではエントリーシートの内容等についても集中的に考えます(成績評価の対象にはなりません)。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>ゼミの内容そのものが企業研究のトレーニングにもなります。また、学外での活動も想定していますので、それに関わることにより、ガクチカ(学生時代一番力を入れたこと)やコミュニケーション能力等、就職活動や就職後に必要な力が自然に身に付くように工夫しようと考えています。エントリーシートの添削、面接対策、小論文対策等就職対策全般についてもお手伝いします。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>ゼミでの学習に基づいて、各自でテーマを設定してもらいます。字数については12000字以上で考えています。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・街づくり、地域活動、ボランティアに積極的な学生の参加を歓迎します。 ・授業外での活動は任意参加ですが、他のゼミよりも多いかもしれませんので、心づもりをしておいてください。 ・無断欠席、無断遅刻はやめましょう。 ・ゼミ活動を通して、みんなで協力し、切磋琢磨しながら成長して欲しいと願っています。
<p>その他</p>	<p>初めてゼミを担当するので、上記の内容が皆さんにちゃんと伝わっているのかなど、いろいろと心配です。なので、もし私のゼミを検討されているのであれば、あとで「藤野ゼミに入るんじゃないかな」なんてことにならないように、事前の研究室訪問を強くお勧めします。研究室に在室しているときは基本的にいつでも対応します(事前にメールで予約していただいてもかまいません)。</p> <p>また、なにか質問がある場合は、直接研究室にお越しいただくか、メール(fujino@k-kenta.ac.jp)までお願いします。</p> <p>本来の専門は法学なので、もしご要望があれば関係資格(宅建士等)の指導もします(藤野は宅建士、行政書士、2級FP試験に合格しています)。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

船津ゼミ	
基本テーマ	<p>コミュニケーション能力、議論する力、マクロ経済学を主とした経済学に関する体系的知識、経済・社会に対する洞察力、プレゼン能力の習得・向上を目指します。これらは、一般企業、公務員等を目指した就職活動全般や進学に有意義であるだけでなく、卒業後、社会人として様々な活動をする上での地力になると考えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>ゼミの具体的な運営方法は初回にゼミ生全員で話し合っ決めてたいと思います。そして、1年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミを目指します。</p> <p>私からは、現時点では、毎回のゼミの最初の20分程度でグーグルの研修プログラムを参考にしたコミュニケーション能力向上のためのエクササイズを行い(面接対策にも有用と考えます)、その後の1時間強は、伊藤元重『マクロ経済学 第2版』日本評論社か中谷巖他『入門マクロ経済学 第6版』日本評論社をテキストにマクロ経済学を学びつつ、学んだ内容と関連したニュース等について議論することを提案する予定です。</p> <p>マクロ経済学は公務員志望者、進学希望者、金融関連等への就職希望者だけでなく、どのような道に進んでも有用です。しかし、商経学科には経済専攻であっても「経済学」の後、マクロ経済学についてさらに学べる科目が開設されていません。マクロ経済学についてさらに学びたいという声がよく上がりますので、ゼミの主要なテーマにふさわしいものの1つと考えます。</p> <p>また、テキストの学習以外に数回、ディベートか新聞や海外通信社の記事等を元にした議論も行いたいと思っています。</p>
就職指導の方針	<p>ゼミ生の要望に応える形で指導します。こちらから、あれをしなさい、これをしなさいといった指示を出すことはありません。</p> <p>具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望のゼミ生には、志望大学に合った勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会をしたりといったことをしてきました。</p> <p>二部ゼミで2年次に地方公務員に採用され、公務員として勤務しながら学び、卒業した先輩が、面接や履歴書対策の資料を残してくれていますので、それも活用してもらおうと思っています。</p>
卒論の要件	<p>分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、経済・社会に関するものであれば基本的に自由です。</p> <p>過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用、中小企業のジョブ型雇用導入)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災(鹿児島市と宮崎市の比較、建設発生土問題)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較、東宝と東映の比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック、太陽光発電の現状と課題、ブロック経済政策の歴史等がありました。</p> <p>ゼミ全体やゼミの中での数人のグループで共通のテーマに取り組むことも考えられます(過去には2人で協力してアンケートを取って保育士・幼稚園教諭の人材確保と処遇改善に関する連名の卒論を書いた先輩もいます)。</p>
学生への要望	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意・不得意といったことは一切問いません。経営情報専攻でも全く問題ありません。</p> <p>ゼミの議論では積極的に発言してもらいたと思います。良いこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分です。そして、そうしやすいようにゼミを運営するつもりです。</p> <p>毎回のゼミでのそうした積み重ねが、コミュニケーション能力や議論する力、プレゼン能力の向上に必ずつながっていきます。</p>
その他	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なく声をかけてください。他の仕事等と重なる可能性もありますので、前日の午後9時までにメールでアポイントメントをとってもらおうと確実だと思います。数人一緒でも大丈夫です。来室時には軽くノックして、「〇〇(自分の名前)です」と呼びかけてもらえると助かります。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

前田ゼミ

基本テーマ	<p>【基本テーマ】 持続可能な地域づくりを考える</p> <p>【概要】 日本全体の人口減少や大都市圏への人口移動等により、地方圏の多くは存続の危機に直面しています。これからは、そこに住む人々自身が地域のあるべき姿を意識しながら、地域づくりを考えていくことが重要です。このゼミでは「持続可能な地域づくり」を基本テーマとして、先進地の事例や理論を参考にしながら、各自の発想によって持続可能なより良い地域づくりの方策を考えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>【演習1】 文献調査や文献輪読を通して地域づくりの基礎知識について学びます。学期の終わりには、成果をまとめたレポートを提出してもらいます。</p> <p>【演習2】 地域づくりに関する文献調査および事例調査を行います。ゼミでは、それぞれの調査結果を報告し、各自が卒論のテーマとしたい課題を見つけていきます。学期の終わりには、成果をまとめたレポートを提出してもらいます。</p> <p>【卒業研究】 各自が卒論のテーマを決めて研究を進めます。ゼミでは、各自のテーマに基づき研究内容や進捗状況などを報告します。</p> <p>【ゼミ活動(任意)】 鹿児島大学農学部附属演習林(垂水市)と連携して、ゼミ合宿等を行います。演習林でのゼミ合宿時には、食事代、鴨池港までの交通費、垂水フェリー往復料金(合計で3,000円程度)がかかります。 県内各地でフィールドワーク(まちあるきや地域の方への聞き取り調査)を実施します。 これらの活動への参加は任意ですが、参加する意欲のある学生を歓迎します(成績には影響しません)。</p>
就職指導の方針	<p>どのような進路を希望する場合でも相談に乗ります。 可能なかぎりに必要なサポートも行いますので相談してください。</p>
卒論の要件	<p>基本テーマに沿って論文を書いてもらいます。 字数制限は設定しません。</p>
学生への要望	<p>地域づくりに関心を持っていること。 特別な理由が無い限り、遅刻・欠席をしないこと。 協調性をもつこと。 ゼミでの意見交換や議論に積極的に参加すること。</p>
その他	<p>質問があれば、いつでも研究室(3号館2階)に来てください。 不在のこともあるので、事前に maeda@k-kentan.ac.jp 宛に連絡してください。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

山口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>〈「当たり前」を疑う〉</p> <p>「自分の頭で考えて行動する」ということを大学生生活の目標としている人もいますが、これは一筋縄ではいかない試練になります。 もちろん”実践”を通じて鍛えることも大事で、その際行動力があること、行動力を磨くことも重要です。 しかしこのゼミでの強調点は、その前の段階、”考え方”にあります。 近年行動経済学などにも応用されていますが、そもそもヒトの認知の仕組み(心理)からして、「自分の頭で考えて行動する」は難しいのです。 人生の大半の場面では、無意識的、直感的な判断で行動してしまういくものであり、一つ一つの行動の意味を考えていたらほとんど何も動けなくなってしまいます。 ところがやはり、意味というものをじっくり考えて判断しないといけない場面にも、特に現代社会ではほとんど誰しも遭遇します(手近なところでは進路選択など)。</p> <p>そこで”意味”を考える力をつけるために、このゼミでは〈「当たり前」を疑う〉というテーマを掲げます。 「疑う」とは「否定する」ということではありません。「当たり前」「常識」とされている事柄は、人々が意味を考えずにただ従っているということが多いため、あえてそうした事柄の意味を考えてみましょうということです。</p> <p>卒論では興味のある事柄から何か社会問題を取り上げ、常識的な解決策を徹底的に調べてまとめ、意味を考えてもらいます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習1では、物事を認識し、理解するとはどういうことなのかを学びます。手段として、共通文献の輪読と賛否両論ある社会問題についての討論を行います。 演習2では、「社会」という独特の対象への認識を深めるために社会科学の理論に関する文献輪読を行い、並行して各自のテーマとしたい問題に基づいてゼミ参加者による研究報告を行います。 卒業研究では、各自がテーマを決めて研究を進め、研究報告を中心としたゼミ運営を行ないます。 演習1および演習2の最後には、それぞれ半年の成果をまとめたレポートを提出してもらいます。</p> <p>文献輪読の対象文献は今のところ以下。その他はゼミ生の興味関心に合わせて選定します。 服部史、小島治幸、北神慎司(2015)『基礎から学ぶ認知心理学』有斐閣ストゥディア ダニエル・カーネマン(2014)『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』ハヤカワノンフィクション文庫 苅谷剛彦(2002)『知的複眼思考法』講談社+α文庫 筒井淳也(2020)『社会を知るためには』ちくまプリマー新書</p> <p>上記はデフォルトの進め方ですが、ゼミ生の話し合いによって微修正、大修正が出て問題ありません。ゼミはゼミ生みんなのものです。 その他課外活動として合宿(最初期をイメージ。お互いの交流を深め、話し合いをしやすくする企画)、調査、研修旅行(福岡、名古屋、東京が候補)、懇親会等を行います(全て実施とは限りませんが、実施しても強制参加ではなく、任意参加です)。 たくさん話し合いが必要な「めんどくさい」ゼミを目指します。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職・進学いずれにしても、基本は自分自身で進めてもらいます。 その中でわからないことがあれば相談に乗ります。可能なかぎり必要な支援も行いますので、相談は遠慮せずしてください。 支援の中身としては、編入試験の勉強会のチューター、志望動機の添削や自己分析の手伝いなどを過去行ってきました。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>テーマは指導の中で相談して決めていきます。字数はおおよそ12000字以上とします(図表込み)。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席をしないようにしてください。 ・しっかり勉強に取り組むことを基本としていますが、とりわけ就活の取り組みを含め、個々人の状況には配慮します。負担が大きいなどの悩みがあれば遠慮なく相談してください。 ・ゼミの課外活動については、実施される場合基本的に参加を推奨しますが、参加不参加の判断は任意であり成績には影響しません。また、金銭面その他不安がある場合は相談してください。 ・自分の心身の健康を大切に。 <p>・その上で、ゼミでやってみたいことを恥ずかしがらずに表明して、責任者として実行していくという経験もぜひお勧めします。</p>
<p>その他</p>	<p>面談の希望があればメール(y-yamaguchi@k-kentan.ac.jp)または直接予約をとってください。 面談は研究室(3号館2階)で行います。</p>

2024年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

山本ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>「見る！聞く！出会う！徹底的に歩いて汗をかきながら、行政法、観光行政法、環境法を学ぼう！」 今年のゼミでは、「行政法」「観光行政法」「環境法」を研究します。まず「行政法」「観光行政法」について学びます。最初に行政法の基本事項を学習した上で、法的視点から「都市ブランドの確立」「ホスピタリティーの育成」等の観光振興のための施策について検討していきます。次に「環境法」を研究します。最初に環境法に関する基本的事項を学習した上で環境保護のための施策について検証していきます。また、フィールド・ワークを通じて地球の自然環境を未来に引き継ぐために、私たちがすべきことを法的視点から考察していくことにします。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰ：ゼミの基本テーマに関連する文献を使用し、行政法、観光行政法、環境法の基礎知識を身につけます。担当者に順番に報告してもらい、全員で議論をし理解を深めます。 演習Ⅱ：各ゼミ生が卒業論文のテーマを決めて、調査を開始します。 卒業研究：卒業論文を作成します。 フィールドワークを実施します。実際に鹿児島の観光地に行き、観光客にアンケートをお願いしたり、インタビューをすることで、より魅力的な観光地になるためのヒントを探します。毎年、山本ゼミでは南大隅町の「雄川の滝」に行っています。20分ほど森の中を歩いて、素晴らしい感動を体験します。また、鹿児島市役所、鹿児島県庁などを訪問し、環境保護担当職員の方にインタビューをしたり、環境未来館で環境問題を学ぶことで、行政法、観光行政法、環境法のあり方を考えます。コロナの状況次第ですが、ゼミ旅行に行く予定です（費用は6万円程度）。これらの課外活動への参加は任意です。参加する意欲のある学生を歓迎します。課外活動は、ゼミの成績には一切影響しません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>履歴書の書き方・面接指導、公務員試験・編入試験の学習指導をします。また、山本ゼミのOGに就活対策、編入試験対策を話してもらうことを予定しています。昨年度は、公務員試験に2名合格、鹿児島大学の編入試験1名合格しました。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論のテーマは自由ですが、1万5千字以上を条件とします。教員を感動させるような卒論をぜひ書いて下さい。</p>
<p>学生への要望</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冷静かつ情熱的に学問に取り組める学生 2. やる気と根性があり、ゼミ活動に熱心に取り組める学生 <p>このような学生を希望します！</p>
<p>その他</p>	<p>山本ゼミを希望する学生は、必ず研究室を訪問してください。研究室訪問の際には、事前にメール(yamamoto@k-kentan.ac.jp)を送るように！</p>